



北広島町 定住者の声

▲からしろ館や cocoloya からほど近い古民家で、2015年11月から暮らしている大塚さんご夫妻。結婚8年だという仲よしなお二人は、頼もしいご近所さんたちに支えられて、新しい暮らしを存分に楽しまれているようです。

移住までの経緯を聞かせてください。

2人とも神奈川の出身です。ボクは横浜市都筑区ってところで、妻は藤沢市。東京都町田市にある「町田調理師専門学校」で知り合いました。専門学校のあとボクは横浜の中華街で10年ほど働かせてもらって基礎をしっかりと学んで、そのあとはジャンルを変えてフランス料理へ移りました。フランス料理といっても、そんなにクラシックな店ではなく、ピストロだったりワインバルのような、飲んで食べて客単価5,000～6,000円くらいのカジュアルな店でした。

東京郊外の小金井市というところに住んで、ボクが店長、妻がサービスの頭として店を任されて。3年間で吉祥寺・中野・立川の3店舗に関わりました。お客さんもすごくたくさん来てくれて楽しかったけど、ボクも妻も「やるならしっかりやらないと」というのがあったので、店に泊まることもあったし、終電で夜中1時過ぎに帰ったり…拘束時間は長かったですね。仕事をしていて、健全じゃない感じがありました。何のために働いてるのかよくわからなくなっちゃうような感じだったのかな。いろいろやらせてもらって、勉強させてもらったから今があると思うんですけど、楽しいけど疲れていく、というかね。（達哉さん）

それで移住を考えたんですね。

移住しようぜ、っていうのはずっと言ってたんですよ。まだ中華街で働いていたときに震災（東日本大震災）があって、周りには逃げてる人もいたので、「俺たちもヤバいんじゃない？」とビビったというか、敏感にはなりましたね。そのあと東京で店をやらせてもらったりして、いろんな人にホントよくしてもらって、「どこでも暮らしていけるんじゃないか？どこかで2人でお店をやったとしても、やっていけそうじゃないか？」とは思いました。「やれたらいいね」って。（達哉さん）

移住に踏み切ったのは、どんなきっかけで？

1回、休みを4~5日もらって、沖縄に行ったんです。東京の仕事で知り合った子が面白いひとで、季節労働というのか、時期ごとに仕事を変えながら暮らしてたんですよね。このときは、北部のはずれにある今帰仁（なきじん）というところで、タバコの葉っぱを育ててる農家で住み込みで働いてて。彼を訪ねて、意識が変わりました。

こんなに時間があるのに、フツーの生活もできてる。自分たちも、働いて給料もらって、ぜいたくな暮らしをしていたかもしれないけど、でも、そうじゃない「豊かな暮らし」みたいなものが沖縄ではすごく見えたんです。海がめっちゃキレイだし、ちょっと行けばすごくいい場所があったりして…。お金なんかなくても、こんないいライフスタイルがあるんだと思いました。それって都会じゃ絶対できない。電車に乗るのも遊ぶのも、何をすることもお金がかかるから。それも楽しかったといえば楽しかったですけどね。でもそんな生活をいつまでやるんだ？って。(達哉さん)

それまで、ゆっくり夫婦の時間って取れなかったんですよね。このとき沖縄に行ったおかげでこの人も私も癒されちゃって、訪ねた家族も私たちに癒されて、すごい相乗効果で。「ゆっくりしたいね」という気持ちが初めて出たんです。

労働時間も長いし、夜中や朝方に帰ってくるのがあたりまえで生活も昼夜逆だったし…休みの日は、疲れちゃって半日以上寝ていました。夫婦2人でいろいろやらせてもらえたことは大きかったですが、体を壊したらやれなくなっちゃうし、「今しかないんじゃない？」って話をしました。(珠美さん)



▲天然由来のエッセンシャルオイルを上手に料理や暮らしに取り入れている珠美さん

どうして北広島町へ？

うちのおふくろが大朝の大塚の生まれなんです。今も家があって、母の兄妹が面倒をみているので、そこを拠点にいろいろ見せてもらおうと思って、来ました。仕事もぜんぶ辞めて、1週間休みをとって…とかでは「うわっつら」な部分しか見えないし、(どこが自分たちに合っているのか)決められなさだと思ったから。本当は、もっといろんな場所を見つめりだったんですが、結果的にはココ(北広島町)と安芸太田町だけでしたね。(達哉さん)

はじめに役場へ行きましたが、賃貸物件がないということで安芸太田町へ行きました。移住された方がたくさんいて、皆さんお店を出されたりしてて…。すごくよかったんですけどね。(珠美さん)

すぐに店を出さなきゃいけないのかな？という雰囲気、お金もないからすぐには無理だなと思いました。大朝にも移住してカフェをやっている人がいるという話を聞いていたので、どうしようかと悩みを抱えたまま、cocoloya にコーヒーを飲みに行きました。そしたらちょうど、い〜ね！おおあさの堀田(高広・理事長)さんやまさくん(音楽家・奥野勝利さん)たちが来て、(店主の)ayumさんも一緒に隣でワイワイやって。「どこから来たの？」と声をかけてくれて、「今日の午後、(森田)隆司さん(栗栖建設社長、ボランティアでの空き家紹介でも多数実績あり)が来るから紹介するよ」って言われて、午後にまた行って話をしました。



この家は、別の地元の方からの紹介で、家主さんの同級生の方が間に入って世話をしてくれました。両親は本当にボクたちがここに住むと思ってなかったみたいで、すごく心配していたので10月いっぱい一度帰って説得と引越しの段取りをして、11月に引っ越しました。(達哉さん)

お仕事は？

こっちへ来て家とか探し始めたのが一昨年8月だったんですが、そんなに毎日見に行くわけではないので、9月からアザレア千代田でアルバイトを始めました。今は、からしろ館でお昼に定食を作ってます。

からしろ館は、鳴滝・本郷・番の目の部落の人が交代で運営していて、産直は講中の方がやってるんですけど、野菜を置くだけじゃなしに、ごはん作るとかできないのかなあ、やりたいなあとは思っていました。何かあったらぎやかになるし、アザレアで働くのもいいけど自分が作った料理を食べてもらった方がいいなあと思って。そしたら「やっていいよ」ってことになって、去年の5月から始めました。火曜日以外は毎日やってます。月に1回くらい連休を取ることもあるかな。周りの人の力添えがあって、楽しくやらせてもらっている部分はあります。(達哉さん)



▲からしろ館にて

ここに住んでても、仕事で千代田に行っちゃったら接点がなくなるんで、からしろ館でごはんを作るのは、いいきっかけにもなるし、すこしでも地元で貢献できるかなと思いました。周りには「なんでもかんでも、早すぎるんじゃない？」とか「生活、大丈夫か？」とか心配してくれる声もありました。

私は、郷田組の純子さんに声をかけてもらって、新庄学園の食堂でごはん作りのお手伝いをしています。自分が住んでいる地元で働きたくて。その方が顔見知りも増えるかなと思ったし、今後自分たちのお店を

やっていくためにも、第1歩になるかなと思って、やらせてもらってます。(珠美さん)



▲和洋中のバリエーション豊かなメニューが日替わりでいただける。2月中旬からは野菜を使ったスイーツも登場予定

🐱 ご近所づきあいは、どうですか？

おふくろや伯父さんの同級生や知り合いがいたり、「沖野の孫か」と言われたり、最初からいろんなつながりはありましたね。ayumさんとかマサくんは「おまえ、違うな。完全なヨソ者じゃないから、いいな」って言います(笑)。宮迫は30代まんなかくらいから40代の若い人が多くて、神楽団も人数はけっこういます。和田建設のタケトシくんもボクの2~3歳上なんですけど、住み始めた日に来てくれて、床がフワフワしてるって言ったら「わかった」ってすぐ木を持ってきて床板をはいで直してくれたり。めっちゃ助かります。(達哉さん)

ほんと、よくしてもらってます。距離感が近くて、みんな家族とか親戚みたいだなってすごい思いました。東京や神奈川は、そんなのないじゃないですか。あと、ジュンちゃんっていう82歳のかわいいおじいちゃんがいるんですけど…。(珠美さん)

いつも気にかけてくれるんですよ。同じ講中で、一昨年の大みそかは、息子も孫も来ないっていうから「じゃあ行くよ！俺らがメシ作るから」って言って、一緒に年を越しました。去年も一緒に。そういうのは、ほんとにいいですね。ここで本当によかったなって思います。(達哉さん)

🐱 移住してよかったことは？

野菜、米、水が美味しいし、朝とかキレイだし、いいことしかない。お金で買えないものがいっぱいあるなと思います。雪のあと晴れたときなんて、上が青くて下はぜんぶ真っ白。すごいっすよね。この景色って、ないなあと思いました。そういう豊かさがありますよね。

あと、田舎はスローライフとか言うけど、ウソですよ。みんな、ほんとすごい動く。僕もこっちの方がよく動かし起きてる時間も長いかもしれないけど、自分でやりたいことをやってるから、疲れが違います。気持ちいい。俺だけかな？（笑）

たまに家でゆっくりしようかなあってタイミングで「来いや」って連絡がくるとか、突然人が家に来るとか、「大変だな」と思うこともありますけど、楽しくやってるよね。（達哉さん）

そうだね。こういう感じなんだなと知っていければ、自分たちも合わせていけばいいし。（珠美さん）



▲屋根から落ちた雪で、家の裏の通路が完全に埋まっています…。



大変だったことはありますか？

住み始めたのが11月末だったんで、寒さが尋常じゃないなあって思いました。水道管が割れたり。アザレアで働いてたから、大雪が降った日「泊まっていよいよ」と言われて家を1日空けたんですよ。そうしたら、トイレの水が凍っちゃって。あと裏に井戸水のポンプとか給湯器があるんですけど、その向こうの斜面と家の間が1~1.5mくらいなのかな。そこに屋根の雪がずって、埋まるんですよ。水が出なくなって、風呂も給湯だったので入れなくなってたんですけど、見に行こうにも行けなくて、行ったところで知識もないから何もできなくて。結局は、雪の重み

でコンセントが抜けかけてゆるんでただけだったんですけど（笑）。（達哉さん）

でもぜんぜんわからないから…。焦りました。雷が鳴って雪が降るのも、驚きました。（珠美さん）

今年はぜんぜん大丈夫です。1年もたてば、人間、学ぶものですね（笑）。（達哉さん）



今後やりたいことは、何かありますか？

今までは本当に不規則で、夜中に飲んだりラーメンを食べたりしてて、手作りのごはんなんて休みの日くらいしか作れなかったんですよ。だから、これからは発酵食品を中心にやっていきたいなと思ってます。味噌は2回作りました。時間ができたら、おしんこも漬けたいですね。姉が神奈川でそういう先生をしていて、ランチを出したりもしてるので、いろいろ教わりたいです。地元の方も皆さん料理上手なので、これから少しずつ学びに行きたいなと思ってます。（珠美さん）

発酵食品とか、一朝一夕でできるものじゃないし、すごいですよね。それをみんなやるじゃないですか。このへんの女性たちは。みんな料理が上手すぎるし。米がおいしいから、おかずは素朴なものもいいんですよ。白菜の古漬けのしょっぱ酸っぱいのと、甘いごはん。理にかなった合わせ方だな、ちゃんと食文化が確立されているんだなと、住んでからわかりました。これは勝てないわ、って思います。ほんとに。

でも地元の方は、「珍しいものを食べさせてくれる」とからしろ館に来てくれるので、面白いなと思います。だから、メニューも固定せず日替わりにしようと思ったんです。まずは地元の人に来てもらって、美味しいものを食べてもらいたいので、作れるものはジャンルを問わず作れば良いと思ってます。あとは、定食もやりつつ、たとえば「からしろ館に行ったら美味しいチャーシュー買って帰れるよ」みたいな「何か」も作れたらいいなと思います。

そして将来的には、大朝だったり、このへんで自分たちのお店をやりたいですね。美味しい野菜と水があって、生産者さんたちとも話ができる環境でやれば良いかなと思っています。理想は、ここ2~3年くらいかな。

自分で野菜を育てるというのも、やってみたい気持ちはあって、畑もあるんですけど、まだ手をつけられてないですね。猟も誘って



▲大朝インターから邑南町方面へ向かう国道261号線沿いにある「からしろ館」(8:00~17:30、不定休)。産直市と喫茶・ランチコーナーがあります。スイーツも充実♪

くれてる人がいて、ジビエ的なことも興味あるし、やりたいんですけど、やりたいことが多すぎて…。体は1個しかないんでね。(達哉さん)

移住を検討している方へのメッセージ

焦らないでほしいなと思いました。ゆっくりいろんなところを自分の目で見て、感じたらいいんじゃないのかなと思いますね。「あ、ここいいな」ってこと、あるじゃないですか。ここに決めたとき、私たちはそういう風にできたから…。私たちは cocoloya をきっかけにいろいろな人に出会えて、2人だけでは見られない部分も、地元の方々が視野を広げてくれたというか。ここがいいな、って自分たちでわからなかったとしても、人を通してそういう風になっていくこともあるだろうから、そこは慎重になって、見逃さないでほしいなと思います。(珠美さん)

悟ってるね(笑)。Cocoloya で、あの日ああいう人たちに出会えて、決まったよね。ここしかないんだな、ここなんだなと。縁があったんだなという感じがします。北広島町は地区によっていろんな違いがあるから、自分に合うところをチョイスできるのもいいと思いますよ。(達哉さん)



▲大塚 達哉(おおつか たつや)さん 30代
珠美(たまみ)さん 30代

移居前：神奈川県 現住所：北広島町宮迫 移住年月：平成27年